

第1回 救急対応
 ハブに噛まれたら

ゆい ちゅうぶ



第1回

ハブに噛まれたら

健康あるある
**救急
 対応**
 きゅうきゅうたいおう



将棋界ではとても有名で、噛まれると怖い沖縄の動物は？
 答えはハブ。ちなみに将棋界の羽生さんは噛むのではなく、「さす」のが得意です。...

さて、いきなりですが、クイズです。

何かにかまれた時、夜中でわからない場合もあるでしょう。痛みが強く、すぐに腫れてくる時はハブの可能性
 があります。

ハブに噛まれたら、どうしたらいいでしょうか？
 急いで、毒を吸い出して、噛まれた部分よりも心臓に近い部分を縛って...以前はそのような指導が一般的でした。最近では慌てずに安静を保ち、特に処置はしな
 ずに救急車などで救急医療機関を受診するように指導
 をしています。

救急室では抗血清を中心とした治療を行います。抗血清を使用した場合は入院治療が必要です。
 (救急センター 多鹿 昌幸)



眼科外来は昨年8月より診療を再開しました。

第1回

4月4日に待望のおひさま保育園ができました。病院で働く職員の多くが女性ですが、これで安心して働ける環境ができました。おひさま保育園は、「東から昇る陽がいっぱい入る保育園」ということで公募で選ばれました。太陽の光を浴び、元気でたくましいこどもに育つよう願いをこめて名付けられました。

[院長挨拶：中部病院は地域とともにある]
 [第74回 卒後医学臨床研修終了式]

平成26年度新人看護師研修は、33名の
 新人看護師とともに平成24年度から導入
 した看護臨床研修の研修生1名、非常勤
 看護師1名の35名でスタートしています。



「ちゅうぶshow」では中部病院ならではの
 取り組みをこっそり紹介します。

各部署の教育委員や教育担当副看護師長
 を中心に、目くばり、気くばり、心くばり
 のある育成計画を行い、多くの仲間と共
 に学び、育ちながら、看護師として自律し、
 そして、自分たちの看護を力強く語れる
 看護師を育てたいと考えています。

また、26年度からは、看護実践能力評価の
 再構築を行い、個々の成長度に合わせ実
 践能力評価にリンク
 した研修と本人の目
 標達成や発達段階が
 分かるポートフォ
 リオの作成に取り組
 んでいます。
 看護部長 徳森朝子



編集後記

広報委員より

今回3年ぶりに広報誌「ゆいちゅうぶ」新
 聞が復活した事に感謝します。
 看護師確保チームから、看護師の求人広告
 をホームページに掲載する際に看護部の内
 容を一新したい目的ではじまったが、院長の
 意見で院内全体に枠を広げた広報委員を再
 開する事になった。広報委員の活動内容は、
 ①ホームページのリニューアル、更新に関する
 事項②広報誌の発行に関する事項③院内掲
 示に関する事項です。委員長に徳森副院長、
 副委員長にリハビリテーション科部長の仲
 地先生を中心に8人の委員が結成され昨年
 9月から活動しています。委託業者も決定し
 ホームページもリニューアル中です。
 「ゆいちゅうぶ」は年
 4回発行予定です。広
 報委員まで投稿お待ち
 しています。

4月から私は八重山
 病院に転動ですが八重
 山情報も提供してい
 たいと思います。今後
 の広報誌の継続と充実
 に期待します。
 広報委員 渡口直子



沖縄県立中部病院へのお問合せ

〒904-2293 沖縄県うるま市宮里281
 TEL: 098-973-4111 (代)

FAX: [代表]
 098-973-2703
 [地域連携室]
 098-982-6568



沖縄県立中部病院

検索

ホームページ <http://www.hosp.pref.okinawa.jp/chubu/>

pickup!

第1回

眼科

眼科外来は昨年8月より
診療を再開しました。

PROFILE

経歴
出身地：沖縄県
昭和薬科大学附属高校 卒
昭和薬科大学 卒
産一業波瀾病院 (初期臨床研修)
産小立中部病院 眼科
産小立中部病院 眼科

資格
日本眼科学会認定専門医
PDT認定医

眼科医師

村田 勝一郎

当科では、日本人の失明原因の上位を占める緑内障や糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症などの早期診断に力を入れています。また、新生児集中治療室(NICU)診療では未熟児網膜症などの眼合併症に対する診療を行っています。

緑内障

日本人では40歳以上の約20人に1人が緑内障といわれています。ものを見る神経(視神経)が障害され、見える範囲(視野)が欠けていきます。早期発見、治療により進行をおさえることができます。

糖尿病網膜症

糖尿病の3大合併症の1つです。網膜はカメラで例えるならフィルムにあたる部分で、視力に大きく影響します。最初は症状がほとんどなく、視力の低下などを自覚する頃にはかなり進行しています。内科の先生と連携し、定期的な検査をお勧めしています。

加齢黄斑変性症

新たな治療法の開発が進み、視力維持を目指すようになりました。やはり早期発見が大事です。

目は10円玉くらいの大きさですが、日常で得られる情報の8~9割は視覚からといわれています。

当科では目の健康維持を通して、皆様がより良い生活を送っていただけるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

眼科診療は地域の医療機関からの紹介で
毎週月・水・金曜日(午前)に受け付けております。
地域連携室にお問い合わせください。



中部病院は地域とともにある

院長挨拶

平成26年度がスタートしました。これまでしばらく発行していなかった広報誌「ゆいちゅうぶ」を復活します。昨年、中部病院に着任するまでの八重山病院の経験から言えることは、離島やへき地の医療は不安定になりやすく、地域医療崩壊の危険性は常にあり、地域医療を崩壊の危険から守るには、地域住民の理解と支えが重要です。その意味では、中部病院が地域に支えられていることを強く感じます。約50年間にわたる強い結びつきがあるからです。中部病院は地域のニーズに応じた医療の提供を行ってきました。「救急医療、離島へき地医療がん診療、災害医療、医師育成」です。特に、「日本一」と言われる研修医教育に関しては、地域住民の協力なしでは、決して達成できなかったと思います。心から感謝いたします。

しかし、長い歴史の中で、地域住民と病院のコミュニケーションが十分に成り立っていないような錯覚に陥ってしまっていないか反省しています。病院の情報を十分に地域に提供していないのではないかと。病院のことを地域住民に十分に理解してもらう努力が不足してはいないか。これからはもっと地域への情報発信に力を入れていこうと思います。

さらに、地域住民とのコミュニケーションの場をつくり出すことも重要です。観月会や病院祭のようなお祭りだけでなく、もっと具体的に有用な情報を共有する場を作りたいと思っています。地域のニーズを正しくとらえたり、病院が提供できる医療や抱えている問題などを伝える機会をもち、今後の地域の発展に繋がるようにしたいです。

これからやってくる社会状況の変化に対応するため、地域住民と協力してより良い医療環境を作っていこうと考えています。



中部病院病院長
松本 廣嗣

第74回 卒後医学臨床研修 終了式



中部病院研修医
4年次終了
高倉 俊一

平成26年3月27日の研修修了式をもって、沖縄県立中部病院での初期、後期研修が終了した。長いようで短い4年間であった。日々の業務や当直をこなすのに精一杯だった1年目、病棟主治医としての責任の重さを感じながら働いた2年目。この2年間は過酷なものであったが、自分が必要とされている、医療に貢献できているという充実感も強かった。

3年目以降の後期研修は、過去2年より仕事量は減り、代わりに後輩の指導や他科からのコンサルトを受けることを求められるようになった。

皆に頼られる存在でなければならぬ。重責はあったが、その分大きく成長できたと実感している。

幸運にも今回、優秀研修医に選んで頂いた。少なからず病院の力になれた証だと思いい、光栄に思っている。しかしまだまだ期待に十分応えられないと思うので、今後もいろいろな形で医療や医学教育へ貢献していきたい。